

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、志を持ち、夢や希望を追求し真に生きる力を持った生徒を育む学校をめざす

- (1) 進路を自己決定できる力と進路を実現できる学力を身につけ、自分の人生を切り拓く力を持った生徒を育てる
- (2) コミュニケーション力を身につけ、自分の言葉で自分の考えを表明できる生徒を育てる
- (3) 校訓である「自他敬愛」の心を育むと共に、自律的な生徒を育てる
- (4) 地域に信頼され愛される学校の取組を通して、リーダーシップを発揮できる生徒を育てる
- (5) これからの国際社会で通用する人材として、伝統や文化に対する理解はもとより、文化や習慣の違いを尊重することができる生徒を育てる

2 中期的目標

1 学力・創造力・徳力を兼ね備えた、社会に有用な人材の育成

- (1) 特色ある教育課程を編成し、生徒の学習意欲を向上
 - ア 将来の仕事能力の基礎となる「学力」を鍛え、自らの人生を開拓し、社会に貢献出来る人材を育成する。
 - ※ 「看護医療」専門コースの生徒に対して、看護師体験及び保育体験などの体験学習を実施する。
 - イ 進路行事を積極的に展開し、進路に関する意識向上と日々の学習意欲向上をめざす。
 - ※ 学校教育自己診断における「進路行事が進路決定に役立つ」肯定率（平成26年度59%）を平成27年度には70%を達成する。
 - ウ 学校における教育活動のあらゆる面で、生徒の言語活動の充実を図る。
 - ※ ICT活用及び協働学習（ペアワークやグループワーク）を通して、プレゼンテーション力と相互批評できる力を高める。
 - ※ 学校教育自己診断における「ICT機器活用の取り組み」肯定率（平成26年度69%）を平成27年度には80%を達成する。
 - エ 使える英語プロジェクトにおける実践をもとに、英語におけるコミュニケーション能力を向上させる。
 - ※ 「読み・書き・聴く・話す」の4領域の中でも、早い段階から、スピーキングの学習に、NETの活用を推進する。
- (2) 生徒が「わかる授業」として、満足度の高い「充実した授業」に向けた授業改善
 - ア 学校教育自己診断や生徒の授業アンケートを参考に授業改善を図る。
 - イ 校内外の優れた実践事例の研修を通し、指導法を研究し、共有を行う。
 - ウ 公開研究授業の実施を推進する。
 - ※ 学校教育自己診断における「授業の内容をわかりやすく工夫」肯定率（平成26年度49%）を平成27年度には70%を達成する。
- (3) 個別指導の充実と自己学習の支援
 - ア 支援の必要な生徒実態を把握し、教職員の共通理解を促進し、支援の充実を図る。
 - イ 進学を意識した講習を実施し、自学自習のための支援体制を整備する。
 - ※ 学校教育自己診断における「進路決定の際の情報提供」肯定率（平成26年度78%）を平成27年度には85%を達成する。

2 自主・自律・礼節を重んじる生徒の育成

- (1) 規範意識の向上（善悪の判断ができる人材及び感謝報恩の心をもった人材を育成）
 - ア 毎朝の立ち番指導及び通学指導を継続し、通学マナーの向上を図る。
 - イ 毎朝の立ち番指導に合わせてあいさつ運動を実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。
 - ウ 頭髪・服装・遅刻指導を推進する。
 - エ 急速に普及しているスマートフォンなどのSNS上の人権侵害防止についての取り組みを推進する。
 - ※ 学校教育自己診断による「生活規律・学習規律の指導」肯定率（平成26年度75%）を平成27年度には85%を達成する。
- (2) 自主的活動ができる生徒集団の育成
 - ア 生徒会行事・生徒会活動・部活動を一層活性化させる。
 - ※ 部活動加入率（平成26年度52%）を平成27年度には60%を達成する。
 - イ 生徒による演技・演奏の発表や芸術作品の発表の機会を増やすことにより、文化・芸術の振興を図る。
 - ウ 生徒による校内外の美化活動を推進する。
 - ※ 生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援していく。

3 ICT機器の活用

- (1) ICT機器を活用して校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保
 - ア 校内イントラネットを活用する。
- (2) ICT機器を活用した授業の実施を推進
 - イ タブレット型PCや電子黒板等を活用する。
 - ウ フューチャールームを活用する。
 - エ 全ての教科で手軽にICT機器を利用した授業ができる環境の整備と教職員の能力向上を図る。
 - ※ 「情報デザイン」コースにおいて、21世紀型スキルの育成をめざしたタブレットの活用を推進する。

4 信頼される学校づくり

- (1) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生に憧れられる学校
 - ア 学校説明会を積極的に実施する。
 - イ ブログを活用して、最新の学校情報を発信する。
 - ウ 学校メールマガジン(モズマガ)の利用拡大を図る。
- (2) 地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校
 - ア 「子育てひろば、東もず」との連携を一層進める。
 - イ 堺市、地域自治会、地域小学校・中学校・大学との連携を進める。
 - ※ フューチャールームを活用して地域との交流を進め、文化発信の場となる。

5 伝統や文化に対する理解はもとより、文化や習慣の違いを尊重する精神の育成。＜「サカイ」から「セカイ」へ＞

- (1) 「自他敬愛（自らに誇りをもち、自らを大切に。他者を尊重し、他者を思いやる）」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。
 - ア 相手と協力し合い、友好的パートナーシップを築くことで、より「自他敬愛」の精神を育てる。
 - イ 「ピア・サポート」活動を一層、拡大充実させる。
- (2) 地域の課題を国際的な課題として捉えることのできる視点を持つ。
 - ア ICT機器を活用した問題解決能力育成の取り組みを推進する。
 - イ アクティブラーニングの評価方法について、「e-Portfolio」等を導入し検討する。
- (3) 「サカイからセカイへ」をキーワードに「国際都市・堺」の在り方について、提言をまとめ、アジア諸国へ発信していく。
 - ア 他者を尊重する国際理解教育への取り組みを推進する。
 - イ 「総合的な学習の時間」を用いて「Aria Studies (AS)」を実施する
 - ※ いかなる時も「出来ない理由」を考えるのではなく、「出来る方法」を考えて道を切り拓き、世の中に新しい価値を生み出せる人材の育成。
 - ※ 人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れるなど、感性を高める指導を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【はじめに】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度、本校では、パナソニック教育財団に応募した「ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価」研究が特別研究指定校に選ばれたことを契機に、4月から校内のICT推進組織を立ち上げ、今までのマルチメディア教室に加えアクティブラーニング教室を新設するなど、学校全体でICT活用の取組みを組織的に進めてきました。 ○ また、創立40周年記念事業の一環として、PTAと同窓会から資金援助を受け、8月に全ての普通教室25室に電子黒板機能付き短焦点プロジェクター、Apple TV、無線LAN環境を整備しました。 ○ ICT活用のメリットを先生方に伝えるため、教員向けに活用方法の講習を行ったところ、9月以降、先生方の75%が機器を活用し、そのうち80%の方がほぼ毎回活用するなど、情報機器の利用回数が大幅に増加しました。 ○ その結果、すべての教科でICT機器が活用されるようになり、日本教育工学協会「学校情報化優良校」に認定されました。 ○ 今後も、教育の情報化をより一層推進し、「学校情報化先進校」をめざしていきたいと考えています。 <p>【学校教育自己診断の結果と分析】については次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <生徒向けアンケート>生徒の肯定意見が「DVDなどの視聴覚機器やコンピュータ・プロジェクターなどのICT機器の活用に取り組んでいる」では、昨年比17ポイントアップの86%、「授業内容をわかりやすく工夫している」では、昨年比9ポイントアップの60%となりました。 ○ また、マイナスポイントとしては、「図書館は利用しやすく。また国語科の読書タイムなどを行い、読書活動に力を入れている」では、昨年比8ポイントダウンの58%となりました。これは、スマホ等の普及により、ネット検索が容易になったことが大きな要因と考えられます。 ○ 平成28年度「指示事項の取り組みの重点」の中の、『【読書活動の推進】読書は、表現力を高め、創造力を豊かなものにするなど「生きる力」を育むには必須であり、発達段階に応じた子どもの読書活動の一層の推進が必要である。「第3次大阪府子ども読書活動推進計画」(平成28年3月策定予定)の趣旨を踏まえ、子どもへの読み聞かせの機会や、子どもが読みたいと思う魅力的な本と出合う機会の拡大に努め、発達段階に応じた子どもの読書環境の充実を図ること。』とあるように、読書活動の推進に取り組む必要があります。 ○ <保護者向けアンケート>では、学年により少しばらつきがあります。1年生の「学校は教育方針を分かりやすく伝えている」では、昨年比6ポイントアップの77%、「この学校のホームページは充実している」では、昨年比10ポイントアップの84%となりました。2年生の「内容が分かりやすい授業が多いようだ」では、昨年比6ポイントアップの55%、3年生の「学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足である」では、昨年比7ポイントアップの75%となりました。 ○ 全学年を通して、「学校は部活動の活性化に取り組んでいる」では、昨年比3ポイントアップの75%となりました。このことは、「クラブ活性化に向けて」プロジェクトチームを立ち上げ、7回にも及ぶ議論を重ねた結果、「クラブ活動を通して、自立・自主性を育み、高校生活をよりいっそう充実させるために、東百舌鳥高校は、クラブ活動を一生懸命頑張る生徒を応援します!」というスローガンを、教職員全員で共有し、外部に向けて発信することができました。 ○ また、「DVDなどの視聴覚機器やコンピュータ・プロジェクターなどのICT機器の活用に取り組んでいる」では、昨年比10ポイントアップの87%、「授業内容をわかりやすく工夫している」では、昨年比3ポイントアップの60%となりました。 	<p>【第1回 6/15(月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新しいパンフレットには三つのスローガンが書かれてあり、「東百舌鳥高校がどんな事をしたいのか」がわかりやすくなっていると思います。このパンフレットを見た中学生や保護者の方に、内容がしっかりと伝わるように努力してください。 ○ 「東百舌鳥高校が生徒をどのように育てたいのか」ということを、分掌や学年を中心に進めていくことも必要ですが、一人ひとりの先生方がどう捉えて授業の中でどう実践されていくかが大事なことだと思います。めざす生徒像の実現に向けて、ふだんの授業のありかたや内容を精査してください。また、先生方の授業力・教師力の向上のための取組みはどうなっていますか。 ○ 大学見学会(1年生進路行事)のあり方や、モズマガ(各学年が配信するメールマガジン)の位置づけについて検討してください。 ○ 組織を民主的に運営するためには、会議や委員会の数が増えると思いますが、先生方が余裕を持って仕事が出来、生徒にかかわる時間や授業にける時間を増やされることを望みます。 ○ 委員会を精選し会議の数を減らし、先生方の仕事を精選して無駄な時間を減らし、先生方が仕事に専念できるようにしてください。これもエコだと思います。 ○ オープンな形で学校を運営され、家庭にも協力を求めて保護者を巻き込んで運営していくことを望みます。そうすることで、入り口が同じでも出口がまったく違うものになると思います。 <p>【第2回 11/11(水)】</p> <p><授業見学></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に活気があり、積極的にコミュニケーションがとれていて、良い授業だった。 ○ 授業がわかりやすいだけでなく、先生方の意識が高まり授業に余裕ができています。 ○ 授業展開が上手にされており、よく生徒のことを研究されている。 ○ 便利になってよかったのですが、鉛筆を使って書くことも、もっと評価して欲しい。 ○ プロジェクターを利用することで、板書の時間が減って、生徒と向き合う時間が増えている。 ○ 先生方が一丸となって、ICT機器の活用に取り組んでおられることがわかった。 <p><協議></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 担任会議と学年団会議、スマホ(携帯電話)の授業での取り扱い、外部模試・校内模試、アルバイト、クラブ加入率、モズマガ(メールマガジン)について、ご質問がありました。 ○ 公立の中堅校で全教室にプロジェクターを導入するなど、ここまで機器を整備している高校は珍しいと思う。多様な進路希望を持つ生徒が在籍する東百舌鳥高校で、ICTを導入し活用することがどんな意味を持ち、どんな効果(変化)が出て、どんな可能性があるかということ、校外にアピールしていく必要がある。また、ソフト面では、先生方がICT機器の活用方法を研究し、ハード面では予算の獲得等、努力していくことが重要です。 ○ プロジェクターを活用した授業は、効果的ですばらしく、もっと評価されてよいと思う。この取り組みは、東百舌鳥高校の一番のセールスポイントです。 ○ クラブ加入率が下がっているとのことですが、実態が生徒のニーズにあっていますか。また、学校に生徒の居場所がないと心配です。家庭と学校が協力して、対処してください。 ○ 校内での生徒の成績や進路結果のデータを蓄積し、そのデータを生徒や保護者にどのように提示して活用するかが、生徒の進路保障を考える上で重要なことです。ぜひ改善をお願いします。また、外部模試を利用することの意味や、メリットを生徒と保護者に理解してもらうことが必要です。 ○ 各教科に共通する国語力、コミュニケーション能力、国際化のための英語力など、各教科におけるカリキュラム・ポリシーを検討し、互いにリンクするようにして、学力の進展を図っていただきたい。 <p>【第3回 2/5(金)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生やその保護者から相談を受けた時に、東百舌鳥高校が入学生に対してどんな対応ができ、どんな取組みをしているのかが、もっとわかるとよい。 ○ 学校教育自己診断結果より、先生方の努力が生徒や保護者に伝わり、アピールできていることがわかる。 ○ アンケートに、「まったく当てはまらない」と答えている先生がいるようですが、どんな問題があるのか対応できていますか。 ○ アンケート結果より、先生方の努力が着実に実を結んでいることがわかる。この調子でお願いします。 ○ 先生方のめざす生徒像と生徒の希望を合致させていただきたい。 ○ モズマガのメールアドレスの変更が簡単にできるようにしてください。 ○ アンケートに学校が楽しいと答えていない生徒のことが気にかかります。こういう生徒への対応をぜひお願いします。 ○ 大学に進学してもやめてしまう卒業生がいると聞きます。ミスマッチが起らないように、キャリア教育のより一層の充実をお願いします。 ○ AL(アクティブラーニング)の取組みが、東百舌鳥高校の看板となり、取組みのモデルとなるようにしていただきたい。 ○ 色々な取組みには財源が必要になります。光熱費の節減に向けて、学内で取り組んで

ください。

<校長より謝辞>

- 府立学校条例により、新しい制度のもと、新学校協議会が発足し、委員の皆様には2年間の任期で委嘱させていただきました。3月31日の任期終了に当たり、一言御礼を申し上げます。
- 年3回の協議会において、「学校経営計画及び学校評価」や「学校教育自己診断」などをとにしながら、委員の皆様からは、本当に忌憚のないご意見を頂き、また、それらを教職員一同、真摯に受けとめ、改善できることから着手してまいりました。
- 本年度は、創立40周年記念という節目の歳にあたり、PTA・同窓会から多大なるご支援を頂き、短焦点プロジェクター設置などの教育環境整備をさせて頂くことができました。そのおかげで早速にその成果が出始め、功を奏してきています。
- 今後も、本校教育活動の一層の向上に向け、教職員一同頑張っ参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力・創造力・徳力を兼ね備えた、社会に有用な人材の育成	(1) 学びに対する意欲の向上 ア 仕事能力の基礎となる「学力」を鍛え、自らの人生を開拓し、社会貢献出来る人材育成 イ 進路行事の積極的展開 ウ 言語活動の充実 エ 英語のコミュニケーション能力の向上	(1) ア・「看護医療」専門コースでは看護医療系の上級学校への進学をめざし、看護師及び保育体験を実施する。 ・「情報デザイン」コースにおいて、21世紀型スキルの育成をめざしたタブレットの活用を推進する。 イ・大学見学や先輩の話聞く会、模擬授業等の体験学習を充実させる。 ・進路体験学習に保護者の参加を呼びかける。 ウ・ICT活用及び協働学習（ペアワークやグループワーク）を通して、プレゼンテーション力と相互批評できる力を高める。 エ・英検の受験を奨励する。 ・オーストラリア語学研修を実施する。 ・校内の案内板や教室の表示板など、多言語（日・英・中・韓等）の言語で対応できるよう改善する。	(1) ア・50%以上の生徒が、看護師体験・保育体験に参加 ・タブレット活用取り組みの肯定率80%以上 (H26:69%) イ・進路行事に対する肯定率70%以上(H26:59%) ウ・各教科において、指導方法の工夫・改善に努めている肯定率60%以上 (H26:69%) エ・英検受験者数100人以上 ・語学研修参加率5%以上(H26:7人)	(1) ア・看護師体験には17人、歯科衛生士体験に2人、保育体験には24人参加。(○) ・看護医療専門コース(27人)のべ合格者は37人、進路決定率は89%(○) ・タブレット活用取り組みの肯定率(H27:81%←H26:69%)(12%増)(◎) イ・進路行事に対する肯定率(H27:71%←H26:59%)(11%増)(◎) ウ・パナソニック教育財団から「ICTを活用したアクティブラーニングの実践と評価」研究が特別研究指定校に選ばれタブレット型PC40台を整備◎ ・すべての教科において、アクティブラーニングの実践(◎) ・プロジェクターなどのICT機器の活用に取り組んでいる。(H27:86%←H26:69%)(17%増)(◎) エ・英検受験者数：3級:86人,準2級:16人,2級:1人,合計103人(○) ・語学研修参加率5%以上(H27:7人←H26:7人)(○)
	(2) 「わかる授業」と「充実した授業」への授業改善 ア 授業改善の推進 イ 実践事例研修の実施 ウ 公開研究授業の実施	(2) ア・授業アンケート等を参考にして、各教科の課題と対応策を協議する。 イ・校外の優れた実践事例の研修を実施する。 ウ・授業を公開する(保護者対象・教員相互)と共に、研究授業を積極的に実施する。	(2) ア・全教科、課題と対応策を提出 イ・実践事例研修を年1回実施 ウ・授業公開設定、他教員の授業見学、報告書の提出を年2回実施する。 ・授業満足度70%以上 (H26:49%)	(2) ア・全教科、課題と対応策を提出(◎) イ・実践事例研修を年5回実施(◎) ・指導教諭による校内の初任者研修を、ほぼ毎週実施(○) ・教育課題について教職員で日常的によく話し合っている。(H27:88%←H26:69%)(19%増)(◎) ウ・第2回相互授業見学週間の初日7限目に、9名の教員の協力により公開研究授業及び研究協議を同時展開し、トータルプラン委員が中心になって全員参加(◎) ・相互授業見学は、6月(42人),11月(61人)の教員が各々実施した。(◎) ・<教員>教育活動全般にわたる評価を行い、教職員でよく話し合っって次年度の計画に生かしている。(H27:69%←H26:58%)(11%増)(◎) ・<生徒>授業の内容をわかりやすくするように工夫している。(H27:58%←H26:49%)(9%増)(○)
	(3) 個別指導の充実と自己学習の支援 ア 支援の必要な生徒実態の把握 イ 進学講習の実施と自学自習のための支援体制の整備	(3) ア・高校生活支援カードを活用し、適切な指導・支援の充実を図る。 イ・全学年を通じて講習、補習に取り組み、生徒の学力向上に努める。 ・定期考査前や長期休業中において、自学自習のため支援体制を整備する。 ・大阪府立大学ボランティアセンターと連携して「マイスタディー・サポート講座」のサポーターを依頼する。	(3) ア・共通理解のための研修を年2回実施 イ・早朝、放課後、土曜、夏季、センター講習の申込者数600人 ・「マイスタディー・サポート講座」の参加者を増やす。 ・進路情報提供に関する肯定率85%以上 (H26:78%)	(3) ア・・1年より高校生活支援カードの活用(○) ・教職員の人権研修2回実施(○) ・アンケート「安心で安全な学校生活を過ごすために」を活用した早期発見・早期対応実現(○) ・教育相談委員会25回実施(○) ・スクールカウンセラーによる面談を13回40人実施(◎) ・自己診断による「望ましい勤労観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的なキャリア教育を行っている」(H27:68%←H26:89%)(△) ・自己診断による「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細い指導を行っている」(H27:78%←H26:91%)(○) イ・進学講習・夏季講習は3年10講座、2年7講座、1年5講座を開講、のべ446人参加。(○) ・府大生による学習サポートには120人参加。(◎) ・自習室活用は、考査前に、各学年で実施 ・進路情報提供に関する肯定率(H27:82%←H26:78%)(○)

<p>自主・自律・礼節を重んじる生徒の育成</p>	<p>(1)規範意識の向上 ア 通学マナーの向上 イ あいさつ運動の実施 ウ 頭髪・服装・遅刻指導の推進 エ スマホに関する指導を実施 (2) 自主的活動ができる生徒集団の育成 ア 生徒会行事・生徒会活動・部活動の活性化 イ 生徒による演技・演奏の発表や芸術作品の発表の機会を増やすことにより、文化・芸術の振興を図る。 ウ 生徒による校内外の美化活動を推進する。</p>	<p>(1) ア・毎朝の立ち番指導及び通学マナー指導を継続する。 イ・あいさつ運動の実施とともに、あいさつ通り(1階)を作り、挨拶を励行する。 ウ・頭髪・服装・遅刻指導を推進する。 エ・1年生に対して、「スマートフォンによる人権侵害」についての取組を推進する。 ・外部の人材派遣による人権研修の開催 (2) ア・生徒会行事を生徒が自主的に運営する。 ・リーダー研修、ピアサポート研修の充実 ・中学生対象の学校説明会を生徒(生徒会役員・部活動部員)が運営する。 ・クラブ員による地域の小・中学生を対象にしたスポーツ教室の開催 ・全国大会出場に向けた支援 イ・部活動の発表の機会や場をつくり、生徒会が運営する。(睦月祭、及び校内展示等) ・各所に常時展示スペースを確保する。 ・新入生に入部を勧める冊子を配付する。 ウ・地域美化活動や東百舌鳥花プロジェクト、東百舌鳥ピカピカ隊を展開する。 ・校内清掃活動を推進する。</p>	<p>(1) ア・通学マナー指導を1週間単位で年5回実施 イ・自己診断におけるあいさつ肯定率 80%以上 (H26:89%) ウ・遅刻総数前年度比 10%減 (H26:9734人) エ・スマホの指導を年3回以上実施 (2) ア・各行事後のアンケートにおける満足度 90%以上 (H26:83%) ・リーダー研修年4回、ピアサポート研修年10回実施 ・学校説明会実施後のアンケート(対中学生)における肯定率 90%以上 (H26:92%) イ・部活動の活性化に対する肯定率 70%以上 (H26:65%) ・新入生の部活動加入率 60%以上 (H26:57%)</p>	<p>(1) ア・着実に年5回実施(1週間40人×5回=200人) ・通学マナー指導として、学校周辺の危険箇所をスライドで映写し「可視化」することで当事者意識を醸成。(◎) ・地域の自治会長からの訓話などで特別指導した結果、通学マナーの向上がみられた。(◎) イ・8月に1階廊下を「あいさつ通り」として、張り出し看板等を設置するなど、挨拶をしやすい環境の整備。(◎) ・自己診断における挨拶について(82%)(◎) ウ・遅刻総数(H27:5829回、H26:9734回、12月末)前年度比59%減(◎) エ・「学校生活と人権に関わるアンケート」や「携帯電話と生活習慣についてのアンケート」において実態把握したうえで、各学年で「情報モラルに関する人権HR」を実施(○) ・「長期休業中の生活態度について」注意喚起 ・自己診断における「学校で命の大切さや人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」について(63%)(○) (2) ア・学校祭「体育の部」「文化の部」に積極的に取り組んでいる(H27:81%←H26:83%)(○) ・リーダー研修年4回、ピアサポート研修年10回を着実に実施した。本部主催による「大阪ピアっ子、大集合」にも7名の生徒が参加(◎) ・宮崎県教委や、他県の2高校の視察を受け入れ、学会での発表にも取り組んだ。 ・オープンスクール実施後のアンケートによる肯定率(1回:91%、2回:92%)、中学生体験入学後のアンケートによる肯定率96%(◎) ・外部特別講師として、ラモス瑠偉氏を招聘し、講演会にクラブ員全員が参加(◎) ・中学生招待東百舌鳥カップ:サッカー(15中学23チーム参加)(◎)、バスケットボール(Shrike Cup)(8中学16チーム参加)(◎) ・ダンス部・写真部が全国大会4年連続出場(◎) ・懸垂幕架枠を設置し、優秀クラブを奨励(◎) ・部活動加入率(H27:全体47%、1年:54%、2年:41%、3年:48%←H26:全体53%、1年:57%、2年:49%、3年:51%)(△) ・クラブ活性化プロジェクトチームを作り、活性化のための提案(クラブ生に対する優遇制度)を策定した(◎) イ・睦月祭(1月)開催(文科系クラブ7団体出演)(○) ・芸文祭(バトン部・ダンス部)に参加(○) ・「学校まるごと美術館構想」にのっとり、玄関・廊下等生徒の美術・書道・写真作品を展示(◎) ・外部特別講師として、書家俵越山氏を招聘し、3年生マルチメディア選択生が「願い玉プロジェクト」に参加(◎) ウ・東百舌鳥「花プロジェクト」に、3回延べ42人参加(○) ・外部連携として堺市公園協会からも支援(◎) ・「安全衛生委員会」を9回開催し、職場環境の改善に取り組んだ。また「学校保健委員会」を2回実施した。(◎)</p>
---------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ICT機器の活用	<p>(1) ICT機器を活用した校務の効率化 ア 校内イントラネットの活用</p> <p>(2) ICT機器を活用した授業を推進 ア タブレット型PCや電子黒板等を活用 イ フューチャールームの活用 ウ 教職員のICT活用力の向上</p>	<p>(1) ア・学校情報を校内イントラネットで一括管理する。(分掌・学年・各委員会・職員会議資料・日々の予定等)</p> <p>(2) ア・タブレット型PCを始めとしたICT機器を使った研究授業を行う。また、その研究成果を他校に伝える。 イ・フューチャールームを活用してICT活用力の向上を図る。 ・授業・特別活動・職員会議・研修報告会で利用 ウ・全ての教科において、ICT機器を活用した授業できる環境を順次整備していく。 ・ICT活用力向上の研修会を開催する。</p>	<p>(1) ア・各分掌や各学年間の連携に関する肯定率 50%以上 (H26:48%)</p> <p>(2) ア・ICT機器を使った研究授業を年6回以上実施 ・ICT機器を使った授業の取り組み肯定率 75%以上 (H26:69%) イ・授業、職員会議、研修報告会、PTA活動等で、年50回以上利用 ウ・研修会を年2回以上開催</p>	<p>(1) ア・各分掌・各学年間の連携に関する肯定率 (H27:62%←H26:48%) (◎)</p> <p>(2) ア・マルチメディア授業において、タブレット型PCを活用したアクティブラーニング実践 (◎) ・自己診断による「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている」(H27:86%←H26:69%) (◎) イ・タブレット型PCを始めとしたICT活用および協働学習をすべての教科で実施。(◎) ・フューチャールームとして、マルチメディアルーム、アクティブラーニングルーム、LLルームを整備してICT機器を活用 (◎) ウ・内部では新転任向けに、外部には府教委はじめ学校や研究会を対象に研修会を9回実施(◎) ・パナソニック教育財団による特別研究指定校を受け、学期に1回研修会を実施。(◎) ・日本教育工学協会(JAET)より、学校情報化優良校に認定 (◎)</p>
信頼される学校づくり	<p>(1) 開かれた学校づくり ア 学校案内パンフレットを刷新 イ ブログを活用した情報を発信 ウ 学校メールマガジン(モズマガ)の利用拡大</p> <p>(2) 地域と連携した事業の展開 ア 「子育てひろば・東もず」との交流 イ 堺市、地域自治会、地域中学・大学との連携</p>	<p>(1) ア・平成27年度に向けて学校案内パンフレットを刷新する。 イ・校長室ブログ・生徒会ブログ・部活動ブログ・図書館ブログの積極的な更新を推進する。 ウ・学年の様子をモズマガとして発行する。</p> <p>(2) ア・昨年度9月に校外へ退去した「子育てひろば・東もず」との連携を一層進める。 イ・中区役所自治推進課のSHSなかじよまちづくりミーティングに参加する。 ・地域との交流を実施し、文化の発信地としての学校の特色をアピールする。 ・デジタルカメラ講習・歴史探訪を実施 ・毎朝の立ち番指導の際、地域の中学生にも声を掛ける。</p>	<p>(1) ア・学校案内パンフレットを刷新 イ・各ブログの更新頻度をあげる ウ・2週に1回発行</p> <p>(2) ア・交流参加生徒のべ200人以上 イ・中区安全安心まちづくり事業に貢献 ・中区民フェスタに参加 ・デジタルカメラ講習・歴史探訪の参加者を増やす。 ・フューチャールーム等の利用者数年間100人以上</p>	<p>(1) ア・学校案内パンフレットを「コース制」が良くわかる斬新なデザインで刷新 (◎) イ・校長ブログは、4月以降 637 回余り、ほぼ毎日更新。校長以外のブログも約 100 回更新(◎) ・校長ブログの効果により、自己診断による「この学校のホームページは充実している」は上昇した(H27:82%←H26:79%) (◎) ・ホームページへのアクセス数は、月に1万回。 ウ・各学年とも2週に1回のペースで着実に発行。 ・自己診断による「メールマガジンは役に立っている」(H27:91%←H26:93%) (○)</p> <p>(2) ア・H27.10より堺市の制度が変わり、「子育てサポートルーム」から「子育てひろば 東もず」に変更し校外に移設したが、引き続き、交流ができていく。のべ196名交流。(○) イ・中学校訪問(里帰り訪問)57名の生徒が50中学を訪問。長期休暇を利用して、1年生が各出身中学に里帰り訪問をして、本校の良さをアピールした。中学校では大歓迎され大好評だった(◎) ・「SHSなかじよ」において、女子高生の生活場面ごとにまとめた防犯啓発冊子について発表した。(○) ・NHK「あほすき」番組に、生徒会執行部がピアサポート活動の紹介で生出演 (◎) ・2月の堺市長のふれあいトークに3名参加 (○) ・夏休みに開催された区民フェスタに参加(ダンス部、バトン部)。(○) ・吹奏音楽部がケアハウスを慰問、校内ではクリスマスライブを開催。3年音楽選抜生が出前演奏会を実施。府大CS活動に吹奏音楽部、バトン部が参加。(○) ・デジタル写真講習会”を年間6回実施し、参加者数合計は73名であった。12月実施の作品展では、外部より60名の入場があった。(○) ・歴史探訪を6月に「阿倍野から住吉大社まで」実施、デジタル写真講習も兼ね20名が参加。(○) ・ロボット講習会を夏季休暇中に開催し、親子20組40人が参加 (○) ・フューチャールーム等の利用者数は、iPad活用研修(80名)デジタル写真作品展(60名)やPTAによるピアサポート研修(26名)等多数(◎) ・マルチメディアルーム、アクティブラーニングルーム、LLルームの整備により、利用者数多数(◎)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">伝統や文化に対する理解はもとより、文化や習慣の違いを尊重する精神の育成</p>	<p>(1) 「自他敬愛」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。 ア 相手と協力し合い、友好的パートナーシップを築く「自他敬愛」の精神の育成 イ 「ピア・サポート」活動の拡大充実</p> <p>(2) 地域の課題を国際的な課題として捉えることのできる視点 ア ICT 機器を活用した問題解決能力育成の取り組みの推進 イ アクティブラーニングの評価方法の工夫</p> <p>(3) 「サカイからセカイへ」をキーワードに「国際都市・堺」の在り方についての提言をアジア諸国へ発信 ア 他者を尊重する国際理解教育への取り組みを推進 イ 「総合的な学習の時間」を用いて「Aria Studies (AS)」を実施</p>	<p>(1) 3つのエリア「歴史・街づくり」「ピア（多文化共生）・関係づくり」「伝統文化・モノづくり」を柱に、世界を知り、日本を知る。 ア・同じエリアの仲間、後輩、留学生メンター、他国の学生の出会い、交流を行い、協力し合っ問題解決を行っていく。 ・各活動の節目において成果物を作成する。 イ・「ピア・サポート」で培った、関係づくりを生かし、多文化共生の取り組みを推進する。</p> <p>(2) 他国の学生とフィールドワークやスタディツアーを通して、国際交流協働学習を行うことにより、新しい価値観や多角的な物事の捉え方を身につける。 ア・ICT 機器を活用した他国との交流を進める。 イ・アクティブラーニングの評価方法を行うため、「e-Portfolio」システムを導入する。</p> <p>(3) 実体験から学び、身につけた知識を他者との交流により深化させ、提言をまとめていく。 ア・留学生との交流をはじめとした協働学習、スタディツアーなどの国際交流活動を通して、国際的な視点をもって成果物をまとめていく。 イ・エリアごとに、堺の街づくり、伝統文化、多文化共生の取り組みを、国際的な視点でとらえ、提言を作成する。</p>	<p>(1) ア・ポートフォリオによるチーム内での相互評価 イ・エリア合同成果交流会や提言作成</p> <p>(2) ア・ICT 機器を使った授業の取り組み肯定率 75%以上 (H26:69%) イ・ポートフォリオによるチーム内での相互評価</p> <p>(3) ア・国際的な発表の場での発表回数（少なくとも1回は経験） イ・国際意識調査の結果の変化（各学年ごとのプレポスト調査）</p>	<p>(1) ア・1年生の総合的な学習の時間において「サカイ」から「セカイ」へのテーマのもと、堺についてのブレインストーミングでグループワークを実施（○） ・堺学を中心に調べた成果をポートフォリオに作成し、文化祭で掲示発表。（○） ・フィールドワークとして、「利晶の杜」を希望者で見学（○） イ・カンボジアの学生が英語の授業に入り込み、日本の大学生のサポートも受けながら、両国の文化・風習の違いなどを聴き取り、班毎に発表（◎）</p> <p>(2) ア・協働学習として、タブレット型端末を活用し、ポスターセッションを行った。（◎） ・自己診断による「コンピュータ等のICT 機器が授業などで活用されている」（H27:86%←H26:69%）（◎） イ・アクティブラーニングによるグループ内でのルーブリックを活用した相互評価を実施（○） ・評価の観点をあらかじめ周知したうえで、各グループの発表について評価を行った。（○） ・パナソニック教育財団から特別研究指定校に選ばれ「ICT を活用したアクティブラーニングの実践と評価」の中間成果発表会を2月に実施、外部から情報担当教諭を中心に50名が参加し、活発な意見交換が行われた。（◎）</p> <p>(3) ア・12/15 カンボジアの留学生との交流をはじめとした協働学習・交流活動を通して、グループごとに発表。参加人数は28人（○） イ・両国の教育環境を比較し、教育環境改善に生かすことができるアイデアを各々に発表（○）</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------